

住民参加でみなとまちづくり



整備中の八幡浜港

「浜っ子たちの情熱が
「みなとまち」を再生に



八幡浜港みなとまちづくり
協議会事務局
菊池 司郎
(八幡浜市)

八幡浜市は、愛媛県西端にある佐田岬半島の付け根に位置し、北に伊予灘、西に宇和海を望み、丘陵地が多く、海はリアス式海岸が続き、温暖で風光明媚な地域である。古くからの物資の集積港として、また、トロール漁業の基地として栄え、そのにぎわいと活力が商業を起こし、「伊予の大阪」と謳われた。現在は、年間約50万人が行き来する西日本有数の八幡浜港を抱え、四国の西の玄関口としても名をはせている。

しかしながら、近年、漁獲量の伸び悩みや魚価の低迷、燃料費の高騰など、水産業を取り巻く環境は大変厳しいものがある。最盛期には27統(54隻)あったトロール漁業も、現在は1統(2隻)に減少。また、もう一つの特産物である日本一の品質を誇る温州ミカンも、消費者離れで価格が低迷。そのような危機的状況を見かね

「浜っ子達」が立ち上がった。

八幡浜港は、フェリーターミナルと四国一の規模を誇る魚市場が隣り合わせで港湾区域内に漁業区域が共存しているという特異性を持っている。平成14年3月、八幡浜市は産業等を活かしながら個性と魅力ある「みなとづくり」を進めようと「八幡浜港(港湾・漁港)振興ビジョン」を策定。

- ① 特産品の水産物や農産物を利用した観光魚市場を整備し、フェリー客などの来訪者をひきつける港づくり
- ② 水産市場をリニューアルして近代化を図る



みなとまち探訪ツアー

■八幡浜港みなとまちづくり協議会HP <http://www.y-minatomachi.net/>

③防災拠点港湾としての整備やブルジョアポートの収容を図り、安心な暮らしを支える港づくり

という、三つの基本目標を掲げた。

このビジョンを推進し、実現するため、平成15年8月、市民を中心とした「八幡浜港みなとまちづくり協議会」とその附帯組織である「ワーキンググループ」が設立された。いわば「知恵袋隊と行動隊」のコラボレーションだ。

やわたはま海鮮朝市での成果

みなとまちづくり協議会の谷本典量史会長は、「各イベントに県内外からたくさんの人に参加してもらっているが、八幡浜に魚の買い物や市内歩きにツアーバスが来るなど過去に例がない。これら集客を分析することによって、港のにぎわいに人をどう取り込んでいけるか研究が必要。」と語る。

これまで年1回だった朝市を、平成14年から毎月1回第2日曜日に「やわたはま海鮮朝市」として開催。毎回約5千人の客で賑わい、しかも半数以上が市外からの客であり、リピーターも多い。朝市参加者を対象とした買い物金額アンケート調査での経済効果は約1500万円であると試算され、実証実験ながら人を呼び込める手ごたえを感じた。

住民参加のみなとオアシス

様々なイベントや社会実験を進める中、平成17年8月、国土交通省四国地方整備局が推進している「みなとオアシス」に登録される。みなとオアシスのネットワークを活用した情報発信や他のオアシスとの交流・連携を進めるほか、イベントの際には、将来を見据えて地元高校生を積極的に起用。市民に対しては、オピニオンリーダーの発掘と育成を目的に、市民講座やフォーラムなどで意識を高めている。

近い将来、「振興ビジョン」が実現した後も、新たに整備された施設が有効に活



やわたはま海鮮朝市



四国のみなとオアシス交流物産展

用され、みなとを中心とした賑わいの創出を図るためには、地域の個性を活かした魅力ある「みなとづくり」が継続して行われなくてはならない。

さて、今年11月には「第26回地域づくり団体全国研修交流会」が愛媛県で開催される。港から中心市街地や歴史的町並み・地域資源を有機的に結びつける体験型観光など交流人口を拡大する社会実験の成果を基に、参加される皆様に喜んでいただけるプランを検討中。協議会またワーキンググループのメンバー一同、多くの方にお集まりいただき、大いに語り明かせることを期待している。

浜っ子と皆さんの情熱で「みなとまち」をもっと熱くできるように。